

# 徳島大学埋蔵文化財調査室

発掘調査実績報告

## 徳島市庄・蔵本遺跡第23次発掘調査概要報告書

国立大学法人徳島大学病院・県立中央病院間連絡橋建設にともなう埋蔵文化財  
発掘調査

2011年4月28日

国 立 大 学 法 人  
徳島大学埋蔵文化財調査室

## I. 調査の概要

- ① 遺跡の名称 徳島市庄・蔵本遺跡
- ② 遺跡の所在地 徳島市蔵本町3丁目18—15番地
- ③ 調査の目的 国立大学法人徳島大学病院・県立中央病院間連絡橋建設にともなう埋蔵文化財発掘調査
- ④ 調査面積 100 平方メートル
- ⑤ 調査期間 平成 23 (2011) 年 4 月 4 日～4 月 18 日
- ⑥ 調査主体 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室（室長 中村 豊  
総合科学部准教授）
- ⑦ 調査担当 中村 豊・遠部 慎（埋蔵文化財調査室助教）
- ⑧ 調査補助 山本愛子（施設マネジメント部技術補佐員）

## II. 歴史的環境

庄・蔵本遺跡は、徳島市庄町・蔵本町に位置する（第1図）。国立大学法人徳島大学蔵本キャンパスは、全域が、埋蔵文化財包蔵地の指定を受けている。時代的には縄文時代後期中葉から弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代から江戸時代にいたる複合遺跡である。さらに、近代には陸軍第43連隊の兵営として機能していたこと也有り、戦跡関連の遺物が出土することもある。なかでも、弥生時代前期の遺構・遺物は極めて豊富で、初期の灌漑水田稻作に基づく集落として、各界からの注目を浴びている。

周辺の遺跡としては、縄文時代晚期後半の遺物が多量に出土した三谷遺跡（南佐古6番町）、庄・蔵本遺跡の東南に隣接し、ほぼ同じ内容の南蔵本遺跡、西に隣接し、弥生時代前期末および中期後葉の集落址である南庄遺跡のほか、弥生時代中期後葉・後期後葉および鎌倉～室町期の遺跡で、埋納銅鐸で著名な名東遺跡が存在する。

## III. 既往の調査

国立大学法人徳島大学蔵本キャンパスでは、今日までに、22次にわたる調査を実施している（第2図）。すでに、今までの調査で、弥生時代前期を中心に全国的にも注目される成果を蓄積してきている。例えば、第6次調査では弥生時代前期の墓域を調査し、第1～3、15次調査では貯蔵穴、土坑群を調査している。さらには第5・7・9・10・13・16次調査では用水路網、第17次調査では

水田址と、弥生時代前期の集落像を、ほぼ復原しえるほどの成果を得ている。

今回の調査地点は、その第23次調査に相当する（第2図）。

#### IV. 調査の概要

本調査では、調査面積が狭いことと、陸軍第43連隊ないしは1990年代以前の再開発前の病院関連の建物跡によって、調査区の大半が破壊されていたため、検出遺構・出土遺物ともに極めて乏しかった。

##### 1. 基本層序（第3図）

表土下約1mまで、現大学病院造成時の表土がみられる。

表土下の第1層は、第43連隊造営まで當まれた、近代の水田層（灰オリーブ色粘土5Y5/2）である。

第2層は、灰オリーブ色粘土層である（5Y4/3）中世終わり頃から近世にかけての水田層である。

第3層は、灰オリーブ色粘土層（5Y5/3）であり、弥生前期末～15世紀頃にかけての土壤化層である。今回の調査では、弥生後期の土器片が出土している。

第4層は、暗オリーブ色シルト層（5Y4/4）である。弥生前期末・中期初頭の洪水砂を起源とする層である。今回の調査では、遺物の出土がみられない。

第5層は、灰オリーブ色粘土層（5Y4/2）である。弥生前期中葉以前の土壤化層である。調査区周辺では、この層上面で水田遺構を検出している。今回の調査では、遺物の出土がみられない。

第6層は、灰色粘土層（5Y4/1）である。弥生前期中葉以前の層である。

第7層は、暗緑灰色粘土層（10GY4/1）である。

##### 2. 検出遺構（第4図）

今回の調査では、近世以前の遺構を検出できていない。第1層上面、調査区北端において、近代～現代の溝を検出している。底面をコンクリートで固め、両肩は1辺30～1mほどの結晶片岩の板石を積み上げて形成している。旧陸軍小銃の弾丸などが出土している。

なお、第3層からは弥生時代後期の土器片が出土しており、付近に遺構がみられた可能性が高い。また、第5層上面において、中央診療棟地点（第2図17）や、大学東側に隣接する南蔵本遺跡（徳島県埋蔵文化財センター調査）において、水田遺構を検出しており、この層が水田耕作土である可能性が考えられる。

## V. 出土遺物の概要

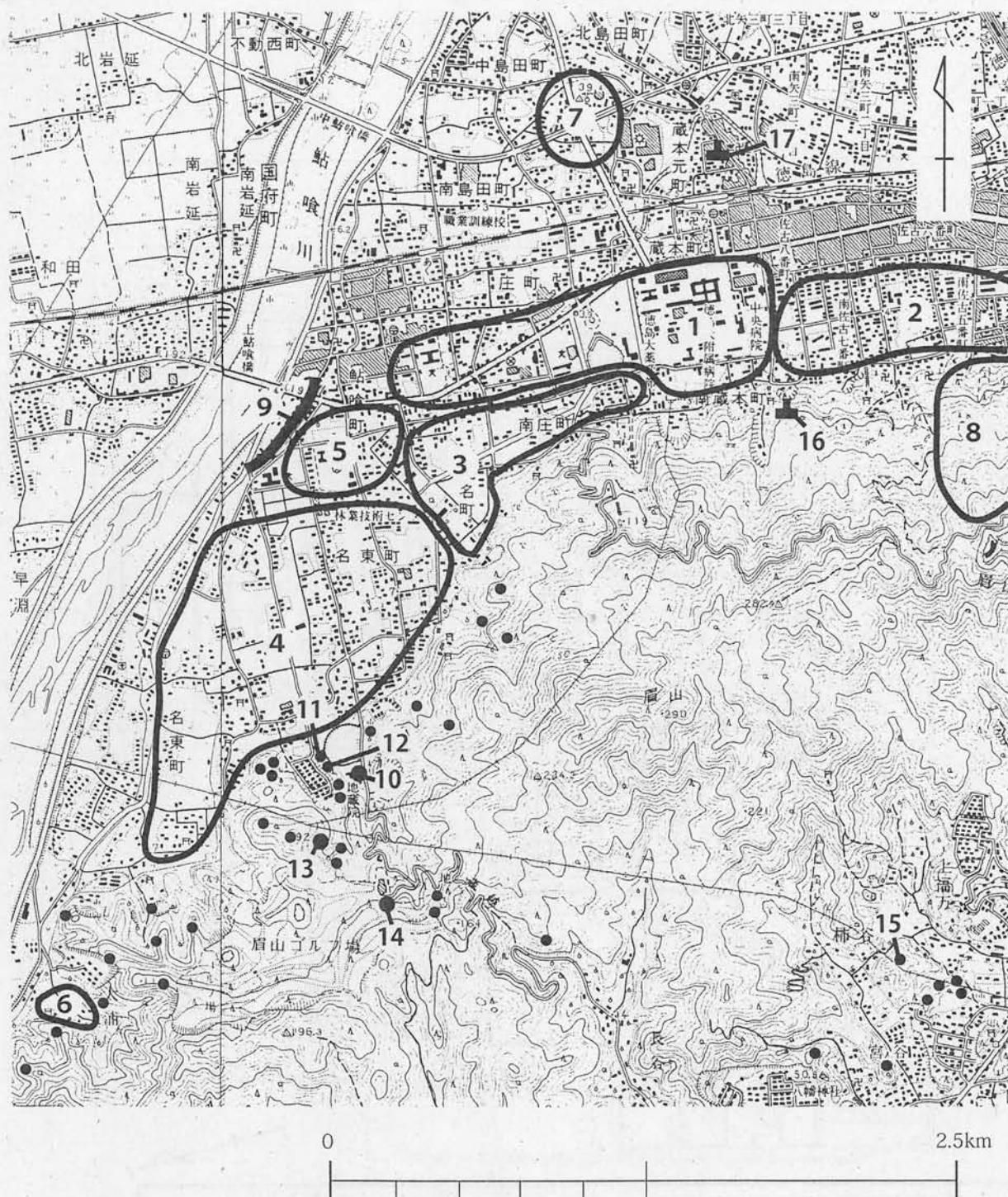
今回の調査では、コンテナ1箱分の資料が出土した。近現代の溝からは、旧陸軍自動小銃の弾丸が出土している。

第3層では、弥生後期の土器片10点ほどが出土している。

## VI. まとめ

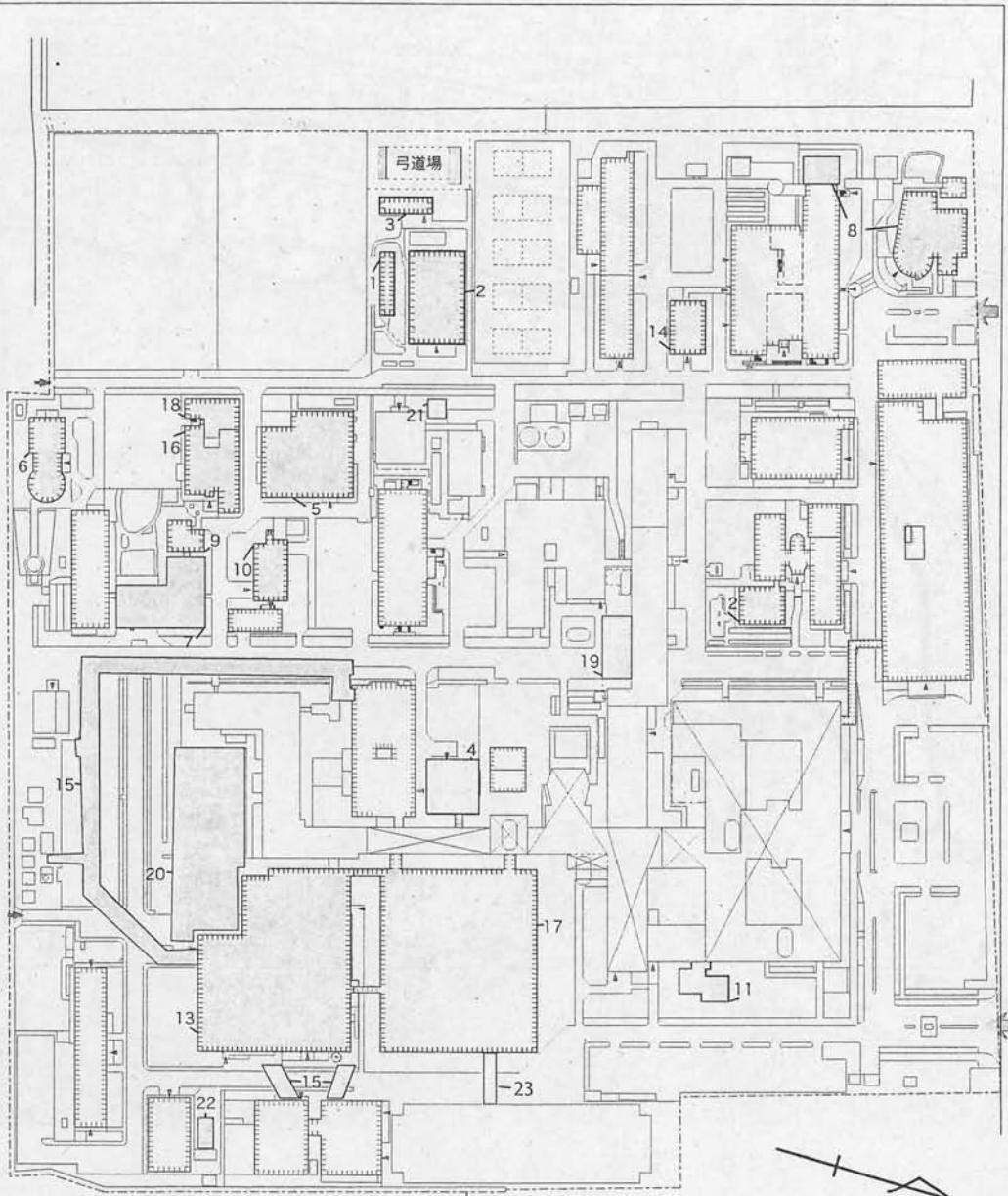
今回の調査地点は、調査面積も狭く、また、すでに近年の建物基礎によって調査区の大半が破壊されていたこともあって、遺構・遺物ともにほとんどしゅつどしなかった。しかし、調査区すぐ西側の、中央診療棟地点（第2図17）では、弥生後期の集落跡を検出し、前漢鏡の破鏡が出土している。第3層出土の土器は、これらに関係する可能性がある。

また、同じく中央診療棟地点では、弥生前期中葉の水田層を検出している。さらに、調査区すぐ東側の、南蔵本遺跡（徳島県埋蔵文化財センター調査）でも、同時期の水田が検出されており、今回の調査の第5層も、水田耕作土である可能性が考えられるのである。これらのことから、今後の発掘調査でも、十分な注意を払っていかねばならないといえよう。



- |                      |                     |              |
|----------------------|---------------------|--------------|
| 1 庄遺跡（蔵本遺跡、南蔵本遺跡を含む） | 7 中島田遺跡             | 12 節句山2号墳    |
| 2 三谷遺跡               | 8 徳島藩主蜂須賀家墓所（万年山地区） | 13 うばのふところ古墳 |
| 3 南庄遺跡               | 9 袋井用水の水源地          | 14 八人塚古墳     |
| 4 名東遺跡               | 10 穴不動古墳            | 15 福万谷1号墳    |
| 5 鮎喰遺跡               | 11 節句山1号墳           | 16 佐古城跡      |
| 6 大浦遺跡               |                     | 17 伝蔵本城跡     |

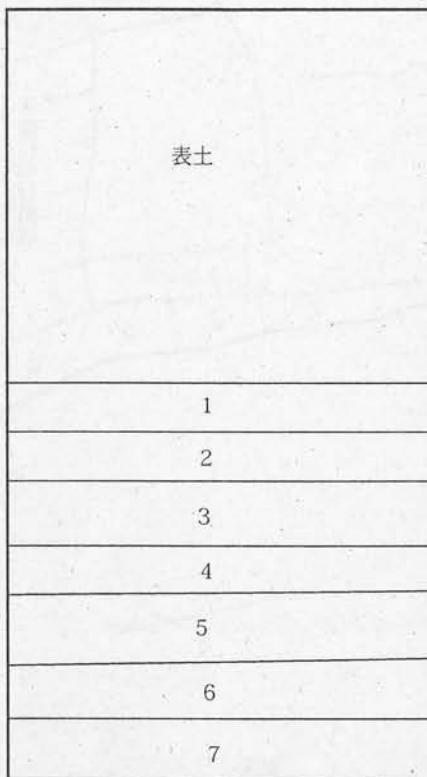
第1図 周辺の遺跡



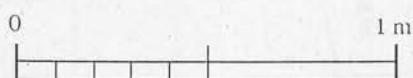
1 体育館器具庫	8 長井記念ホール	14 医薬資源教育研究センター	20 西病棟
2 体育館	9 薬学部実験研究棟	15 共同溝	21 医学系総合実験研究棟
3 課外活動共用施設	10 医療技術短期大学増築	16 ゲノム機能研究センター	III期改修その他
4 医学部臨床講義棟	11 酵素科学研究センター	17 中央診療棟	22 西病棟新営その他電気設備工事
5 動物実験施設	12 附属図書館蔵本分館増築	18 ゲノム機能研究センター増築	II期改修
6 青藍会館	13 東病棟	19 医学系総合実験研究棟	23 連絡橋

第2図 調査地の位置(S=1:3,000)

S 東区西壁基本層序 N



- 1 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘土層 近代の水田層
- 2 灰オリーブ色 (5Y4/3) 粘土層 中世～近世の水田層
- 3 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粘土層 弥生前期末～15世紀頃の土壤化層
- 4 暗オリーブ色 (5Y4/4) シルト層 弥生前期末・中期初頭頃の洪水砂起源層
- 5 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘土層 弥生前期中葉以前の土壤化層（水田土壤の可能性）
- 6 灰色 (5Y4/1) 粘土層 弥生前期中葉以前
- 7 暗緑灰色 (10GY4/1) 粘土 弥生前期中葉以前



第3図 基本層序

図版 1



調査前 南より



西区重機掘削 北より

図版 2



作業風景



西区完掘状況 西より



西区基本層序

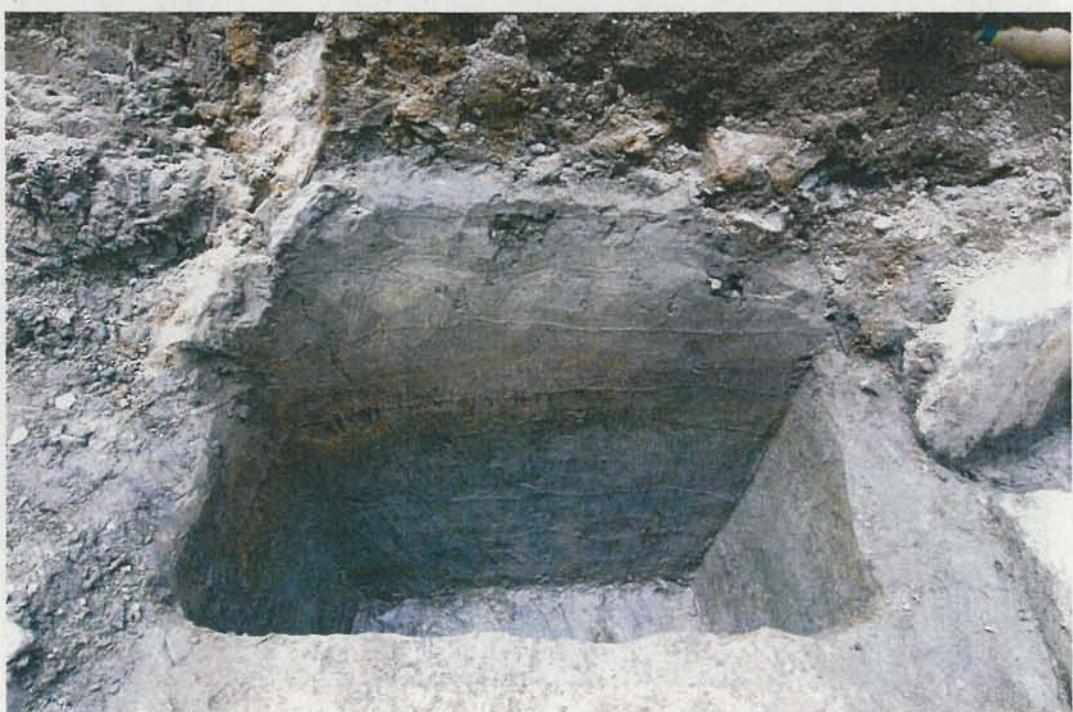


西区近現代の石組溝 西より

図版4



東区重機掘削 北より



東区基本層序 東より

図版5



東区完掘状況 東より



同上 北より

図版6



弥生時代後期の土器



旧陸軍弾丸